



ウクライナは滅びず (ウクライナ国歌) 1917年採用、2003年復活

作詞 パヴェル・チュビンスキー (1862年)

作曲 ミハイル・ヴェルビツキー (1863年)

ウクライナは未だ滅びず

栄光も自由もかく留む

同胞よ、時運は我らに再び微笑まん

我らの敵は太陽の下に露と消え

治めらむ我らは国を我が地にて

魂と五体を捧げむ我らの自由のために

示すは我らコサツクの子孫なりと

同胞よ 例え戦場となろうとも

我らは起とう、サン川からドン川まで

我らは認めぬ他の者の支配を

黒海は微笑み 父なるドニエプルは歓喜に満ちる

ウクライナに再び幸運来たれりと

魂と五体を捧げむ 我らの自由のために

示すは我らコサツクの子孫なりと

我らの忍耐と至誠の努力は報われ

自由の歌はウクライナの地に響き渡る

その歌はカルパチアの山々に反響し、草原に鳴り響く

ウクライナの名声と栄光は

万国に知られよう

魂と五体を捧げむ 我らの自由のために

示すは我らコサツクの子孫なりと

補注、

ウクライナは今、露軍侵攻による戦時下にある。ウクライナに民族神は在るかは、国境はさておき、国歌を読めば一応の推定は付く。筆者はウクライナ語を読めないので、ウクライナ原典の歌唱を聴きながら、英訳から更に日本語に訳したものである。その波動に対する筆者の感応によれば、ウクライナ国とは、コサツクの末裔が自治する国であり、周辺国からの圧政を逃れて「自由」を求めた集団であることが読み取れる。

令和四年(2022年)六月十日

大中正比呂 拙訳

